

プラスチックのごみに関するニュース

2020.6.07 T.Fuji

1. 2020年1月14日 **「日本のプラゴミについて」** テレビ東京番組「AI-DOL」より
年間で、日本900万 t、中国4,000万 t、EU1,800万 t、米国1,600万 t、インド1,400万 t

- ①. 日本のPETボトル162万 t/年であり、一部はPET繊維にケミカルリサイクルを実施。
分別～粉碎～風力分別～水分別→PETフレーク化→熔融紡糸を行っている。
- ②. 洋服を600万 t/年を回収している。無印良品等がケミカルリサイクル等を検討中。
- ③. 三菱ケミカルは、植物※由来のバイオPBSを生産している。半年で自然分解する。
※サトウキビやトウモロコシが原料
- ④. WASARAによる紙皿や食器を開発している。サトウキビの繊維や竹から作成。
100円/枚で販売。通常の紙コップはフィルムコーティングあり、分解せず残留する。
90日で土に還る。堆肥化する。栃木県の茂木にプラントあり。
- ⑤. フランスでは、2020年1月～プラスチック皿やカップの使い捨て容器は廃止。
脱プラスチック化を推進している。

2. 2020年2.05 時事通信社より

「伊藤忠、海洋プラごみを原料に再生=国内初、年4,000 t 生産へ」

米テラサイクル社と共同で、対馬で回収したプラごみを分別・粉碎し、ポリエチレンの原料として再利用する。
シャンプーの容器や子供用の玩具の材料として販売する。

対馬に流着している→



3. 2020年5月2日 AFPより

「衣類から大量のマイクロファイバー、海洋プラ汚染の発生源に」

家庭の洗濯機から吐き出される微小な合成繊維片(マイクロファイバー)が海洋を汚染。
ポリエステル、ナイロン、アクリル等の微小片については、衣料製品の生産量が年間
5,300万 t/年の内、毎年50万 tが河川に流出している事が推定される。
対策としては、洗濯頻度を減らす、購入衣料の削減、織り方の工夫、天然繊維の活用。
但し、天然素材でも綿等は、栽培に膨大な水と農薬を使用するといった側面がある。

4. 2020年5月19日 共同通信より

「海洋プラ対策でモデル地域選定 環境省、金沢市等で漁業者協力」

漁協と自治体が協力し、3年間、網にかかったごみを持ち帰り、焼却や埋め立てを行う。金沢市、芦北町、市川市、加賀市、洲本市、宗像市、宮崎市の8都市が協力実施。但し、漁業者がごみを回収する取組みは、費用負担を巡り、漁業者の協力が得られないケースも多い。
環境省は、ごみ発生源の特定手法等を検討する。



5. 2020年5月30日 ハフポスト日本版より

「海底から引き揚げた500 tのプラごみをスニーカーや洋服に変身。ファッションに問われる“つくる責任、つかう責任”とは」

エコアルフ社は、スペイン発のリサイクル素材や環境負荷の少ない素材を使ったアパレルブランド。PETボトルやタイヤ、漁網等からリサイクルファブリックを開発、それらを利用したアパレルや雑貨を製造・販売している。プラごみをリサイクルする事で、従来と比較し、水を20%、エネルギーを40%、CO2を51%削減。削減出来ることが分かった。2023年から日本でも海から回収する事を計画している。



H&Mでも、リサイクルPETの生地や使用済みのコーヒー粉の染料を使用した企画を発表

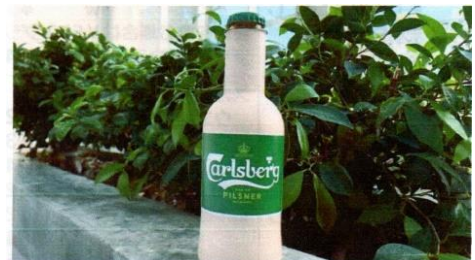
6. 2020年6月6日 TABI LABOより

ネットニュースより

「1年で分解されるサステイナブルなボトルが誕生？」

SDGsでも取上げるほど深刻な問題となっている海洋プラスチックごみに対して、カールスバーグ社とコカ・コーラ社が、完全植物性の材料で出来たプラスチックを開発し、石油で出来たプラスチックを撤廃する。紙製パッケージ会社、ボトル製造会社、再生可能な科学物質研究会社の3社の共同開発。開発しているのは、100%バイオ樹脂で出来たPEFボトルに厚紙でラベルを貼ったもの。強度を高め、ビール等を入れる事が可能になり、且つ、1年以内に自然腐敗する。プロジェクトの目標は、2023年までに、新しいPEFを流通させる事！

ボトルサンプル→



日本でも、2020年7月1日から、スーパーやコンビニのレジ袋が有料化される。プラ廃棄物を減らすには、多少は効果があると思うが、1枚3円では、使用量が減るかどうか？特に、コンビニでは、若者はエコバックは持って来ないであろうと予想される。更に、強力な対策を検討する必要があると思います。

その他) 古いデータですが、2019年11月19日 朝日新聞の記事です。

「大気中からもマイクロプラスチック福岡市内でも確認」

2019年3月～9月、福岡工業大学のキャンパス屋上で、空気や雨を採取。数十から数百µmのポリエチレンやポリプロピレンを発見した。海洋プラの5mm以下より、更に、小さいサイズである。九州の山の樹氷からもマイクロプラスチックが見つかった。